

よぬだ ところどころ



第十六号

ヨナダーが下米田・牧野の色々な見どころを紹介するよ

深渡川と地名

深渡（フカド）という地名と深渡川について

上記の地図は、明治末期の五万分の一の地形図の一部である。青柳橋の東の袂に深渡と漢字で表記されている。この深渡をどのように発音するかといえば、岐阜県の一級河川の表示（写真参照、西脇橋の袂に設置されている）ではフカドとされ、地元の人にはフカトと濁らないで発音する人もいる。

江戸時代に書かれた濃州徇行記では「不可渡」（ふかど）と表記している。漢字であてている意味から考えれば、「渡るべからず」要するに渡ることが不可能ないしはできないという意味である。現在のあて漢字「深渡」はこの「不可」が縁起の良い「深」に書き直されたものと推察できる。また、青柳橋架橋により上古井と結ばれてから「深渡」は交通上重要な位置を占めたものと思われる。深渡に流れ込む



河川を「深渡川」といい、岐阜県資料によれば、昭和四十七年に一級河川として認定されている。深渡川は、則光字大砂留に水源をもち、全長千七百五十メートルで飛騨川合流点に至る。美濃加茂市域

の一級河川では納古川（三和の川浦川支流で約千メートル）について短い河川である。しかし、浸食力は強く、南北に連なる下米田の河岸段丘面を深くえぐって流れている。深渡付近の河床には比較的浸食に強い第三紀層が露出するので、則光方面からの土砂は飛騨川に流れ込み、深渡より下流の飛騨川左岸に堆積する。これが小山の観音島とつながり堆積面の形成に深くかわっている。また、この深渡川に切り取られた段丘崖が坂となり、この段丘崖を登る坂（ハネ坂）についてのお話は次回に譲ることにする。

